

外語大の先生の 新刊棚

この一年間（二〇二二年四月～二〇二三年三月）に出版された外語大の先生の著書・訳書のなかから主なものを紹介します。（先生の
お名前の五十音順）

※書名／著編者名（訳者名）／出版社名／刊行年
月／税込価格 （編集部）

◆青山弘之先生

『混迷するシリア——歴史と政治構造から読み解く』青山弘之著 岩波書店 二〇二二年二月
一七八五円

「内戦化」するシリアの現状を、現代史と政治構造から読み解く。

◆新井政美先生

『イスラムと近代化——共和国トルコの苦闘』新井政美著 講談社選書メチエ 二〇一三年一月
一六八〇円

イスラム世界における近代化の難問を、トルコ共和国の苦闘を通して概観する。

◆荒川慎太郎先生

『契丹「遼」と10～12世紀の東部ユーラシア』

荒川慎太郎・澤本光弘・高井康典行・渡辺健哉編著
勉誠出版 二〇二三年一月 二九四〇円

唐やウイグルの衰退後、一〇世紀初頭に建国された草原の王朝「契丹」の実態はいかなるものであったのかを多角的に解明する。

◆井尻秀憲先生

『迫りくる米中衝突の真実』井尻秀憲著 PHP
研究所 二〇二二年二月 一七八五円

「外交のリアル」を熟知する著者が「米中衝突」の真相を伝える。

◆伊藤祐郎先生

『対話とプロフィエーション——コミュニケーション能力の広がりと高まりをめざして』鎌田修・嶋田和子編著 平田オリザ・伊藤祐郎ほか著 凡人社 二〇二二年五月 二四二五円

対話と会話の違いを知り、対話の本質を知ることによって、言語教育について考える一冊。

◆今井昭夫先生

『現代ベトナムを知るための60章「第2版」』今井昭夫・岩井美佐紀編著 明石出版 二〇二二年一月 二二〇〇円

いま注目のベトナムの魅力とその変貌ぶりを余すことなく伝える一冊。

◆今福龍太先生

『むかしの山旅』今福龍太編 河出文庫 二〇二二年四月 七九八円

日本アルプス黎明期の初縦走・初登攀の記録など、懐かしの、久恋の山々への思い溢れる名隨筆アンソロジー。

◆岩崎稔先生

『立ちすくむ歴史——E・H・カー「歴史とは何か」から50年』喜安朗・成田龍一・岩崎稔著 せりか書房 二〇二二年五月 二六二五円

歴史学の変貌と現在の歴史について三人の研究者が徹底討論。

◆上田広美先生 岡田知子先生

『カンボジアを知るための62章「第2版」』上田広美・岡田知子編著 明石書店 二〇二二年五月 二二〇〇円

近年のめざましい経済発展のなかで、目まぐるしく変化するカンボジアを活写。

◆小笠原欣幸先生

『馬英九再選——2012年台湾総統選挙の結果とその影響』小笠原欣幸・佐藤幸人編 アジア経済研究所 二〇二二年六月 一二六〇円

台湾と中国の関係を軸に、政党の構造や戦略にも分析を加え読み解く。

◆**亀山郁夫先生**
『謎とき』『悪霊』 亀山郁夫著 新潮選書 二〇二二年八月 一七八五円

現代において「救い」はあり得るか？ 究極の「悪」とは何か？ そして、「神」の正体とは？ 人間性の本質を問う試み。第64回読売文学賞受賞作。

◆**川村大先生**
『ラル形述語文の研究』 川村大著 くろしお出版 二〇二二年一月 五六七〇円

古代語研究者だけでなく現代語や言語類型論の研究者にも広い知見を与える一冊。

◆**久米順子先生**
『11世紀イベリア半島の装飾写本——モザラベ美術からロマネスク美術へ』 久米順子著 中央公論美術出版 二〇二二年二月 二九四〇〇円

イベリア半島独自の様式から汎西洋的な美術様式への変化について、政治・社会・宗教的要因も踏まえつつ調査し考察した労作。

◆**桑田光平先生**
『ありえないことが現実になるとき——賢明な破局論にむけて』 ジャン＝ピエール・デュビュイ著 桑田光平・本田貴久訳 筑摩書房 二〇二二年五月 二九四〇円

合理主義や道徳哲学を超え、破局に向かいあうために今必要な思考のプロトコル。日本語版への序文を付す。

◆**小松久男先生**
『ユーラシア世界』全五巻 塩川伸明・小松久男・沼野充義・宇山智彦・松井康浩編 東京大学出版会 二〇二二年五月 各四七二五円

ユーラシア世界の変容を様々な視点から検討した全五巻の大作。

◆**篠原琢先生**
『ハプスブルク帝国政治文化史——継承される正統性』 篠原琢・中澤達哉編 昭和堂 二〇二二年五月 四二〇〇円

ハプスブルク帝国の存続・統治の実態について、その政治文化から読み解く。

◆**柴田勝二先生**
『三島由紀夫 作品に隠された自決への道』 柴田勝二著 祥伝社新書 二〇二二年二月 八六二円

『潮騒』から『豊饒の海』までの一連の作品から、三島の自決への軌跡をダイナミックに浮かび上がらせる。

◆**武田千香先生**
『プラス・クーバスの死後の回想』 マシャード

ジ・アシス著 武田千香訳 光文社古典新訳文庫 二〇二二年五月 一三八〇円

死んでから作家となった書き手がつづる、とんでもなくもおかしい、かなしくも心いやされる物語。

◆**立石博高先生**
『アンダルシアを知るための53章』 立石博高・塩見千加子編著 明石書店 二〇二二年一月 二二〇〇円

歴史から社会、文化に至るまで、アンダルシアの真の姿を紹介する。

◆**クリスチャン・ダニエルズ先生**
『アジアの自然と文化』第1期全3巻 クリスチャン・ダニエルズ監修 小峰書店 二〇二二年四月 各三三九〇円

米、小麦、雑穀という三つのスタート地点から、アジアの人びとの暮らしについて読み解く。

◆**床呂郁哉先生 三尾裕子先生**
『グローバリゼーションズ——人類学、歴史学、地域研究の現場から』 三尾裕子床呂郁哉編 弘文堂 二〇二二年二月 四八三〇円

グローバリゼーションの新たな理解の枠組みを提示し、欧米中心のグローバリゼーション